

# 泉

六年 筆順 9  
ウ 泉 泉  
フ ン セン  
イ ず み

成り立ち



岩穴から「わき水」が流れ出る形を表した字です。

「白」という字と「水」という字とをつなぎ合わせた形に似ていますので、「泉」と書くようになりました。

「わき水」を表した字です。「いずみ」と言います。「いずみ」とは「わき出づる水」という意味のことばの「出づ水」ということです。

「白」は、なにもものにも染まらない色ですから、泉は「なにもものにも染まらない「清らかな水」という意味に考えることもできます。【例】泉水、源泉、温泉、冷泉、鉱泉。

「温泉」の略称として使います。【例】硫黄泉。また、「黄泉（死の世界）」という使い方もします。

使い方

▽この川の源は池ですが、本当はその池の北がわに泉があつて、その泉が池を作り、池の水があふれて川になったのです。

▽ぼくのおじいさんは、温泉が大好きです。時々、温泉に出かけます。ぼくも、休みの時には連れて行ってもらいます。

熟語例

▽泉水（「泉の水」と書きますが、「泉」のことです。また、庭に作った池のことを言います。）

▽源泉（泉や温泉がわき出る源。また、物事の生まれ出る元の意味にも使われます。【例】活力の源泉）

▽温泉（地熱のために温かい湯がわき出たもの。多くはそこに浴場や娯楽場があつて、人々が保養する施設があります。）

▽鉱泉（鉱物質を多くふくんでいる泉。温泉はたいいてい鉱物質をふくんでいますので、ふつうは、「冷泉」のことを言うのに使います。）

▽冷泉（冷たい泉のこと。特に、セ氏二十五度以下の鉱泉のことを言うことがあります。）

# 洗

六年 筆順 9  
シ 洗 洗  
ソ ン セン  
フ ン あらう

成り立ち



「はだし」のことを「洗」と言います。「洗」の意味の「先」に「シ」を加えて作った字です。

「はだしてよごれた足を水で「あらう」ことを表した字です。足でなくても、よごれた時には、なによりも「先」に「水」で「洗い」たくなりますね。

今では、足にかぎらず、「あらう」という時に使われます。

使い方

▽晴れた日には洗濯物を干すと良くかわきます。わたしは天気の日には洗濯するのが大好きで、着ている物を脱いでも洗濯をしたくなっています。パリッとかわいた物を着るのは、とても良い気持ちです。

▽わたしのおかあさんは、テレビを見ている時、よく「あのタレントは洗練されたスタイルをしているわね」とか、「あのアナウンサーの趣味は良くないわ」とか言います。おかげでわたしも洗練されたスタイルというのがどういふものか、わかるようになりました。

熟語例

▽洗濯（衣服などの汚れを洗って、きれいにすること。）

▽洗剤（物を洗うための薬）

▽洗浄（きれいに洗って清めること。）

▽洗面（顔を洗うこと。「洗面器」など）

▽洗眼（目を洗うこと。「プールに入った後は、よく洗眼すること」などというふうには、つかいます。）

▽洗練（あか抜けして、優雅なこと。服装や趣味、人柄などについて言います。もとは、よく洗い、よく練り上げる、ということでした。）

使い方

▽晴れた日には洗濯物を干すと良くかわきます。わたしは天気の日には洗濯するのが大好きで、着ている物を脱いでも洗濯をしたくなっています。パリッとかわいた物を着るのは、とても良い気持ちです。

▽わたしのおかあさんは、テレビを見ている時、よく「あのタレントは洗練されたスタイルをしているわね」とか、「あのアナウンサーの趣味は良くないわ」とか言います。おかげでわたしも洗練されたスタイルというのがどういふものか、わかるようになりました。

熟語例

▽洗濯（衣服などの汚れを洗って、きれいにすること。）

▽洗剤（物を洗うための薬）

▽洗浄（きれいに洗って清めること。）

▽洗面（顔を洗うこと。「洗面器」など）

▽洗眼（目を洗うこと。「プールに入った後は、よく洗眼すること」などというふうには、つかいます。）

▽洗練（あか抜けして、優雅なこと。服装や趣味、人柄などについて言います。もとは、よく洗い、よく練り上げる、ということでした。）